

授業科目 比較芸術研究Ⅱ	単位 2単位
授業担当者 笹原 亮二	授業期間 前期
授業の題目と概要 「日常的・実践的な身体技法としての芸能伝承論」 我々の日々の生活は、様々なかたちの身体技法を駆使した行為実践により構成されている。しかし、それらは、我々に先天的に備わったものではなく、それぞれの文化・社会に伝承的に用意された教授のシステムにのっとって獲得されたものである。この授業義では、芸能をそうした文化的・社会的な身体技法としてとらえ、様々な角度から考えてみたい。	
授業の内容と計画 この授業では、芸能が中心的な考察の対象となるが、「歌舞音曲」といった狭義の芸能に止まらず、音楽・手工業技術・教育・儀礼・口頭伝承など、身体技法を用いた行為実践としての側面を有する様々な事象も視野に収め、それらについて論じた論考や著作を素材に、受講者と議論を行うかたちで進める。 授業において想定される主な論点は、以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸能(身体技法)をどうとらえるか。一定の規範的形式を持つ行為実践としての芸能 ・ 芸能(身体技法)の教授と習得。芸能の教授・習得のシステムのあり方と技法の伝承 ・ 芸能(身体技法)と言葉。言葉による行為実践としての口頭伝承の諸相 ・ 芸能(身体技法)と積義。人々は自らの行為実践をいかに意味付けるか／付けないか ・ 芸能(身体技法)と地域・時代。芸能が各時代・地域の政治・経済・宗教など、様々な社会的影響のもとで習得・伝承されてきた消息 	
使用する参考書、参考論文等 M・モース 1976『社会と人類学Ⅱ』弘文堂 戸井田道三 1978『演技—生活のなかの表現行為』紀伊國屋書店 笹原亮二 2003『三匹獅子舞の研究』思文閣出版 その他、適宜、授業において指示する。	
成績評価基準 授業の際の議論の内容によって、評価を行う。	
その他の留意事項	